

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470700549		
法人名	社会福祉法人 太陽の里		
事業所名	グループホームまごころ		
所在地	三重県松阪市垣鼻町1638-52		
自己評価作成日	平成22年10月15日	評価結果市町提出日	平成23年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470700549&amp;SCD=320□□">http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470700549&amp;SCD=320□□</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 22 年 11 月 15 日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の健康や安全に対して特に力を入れている。介護士同士で情報交換を常に行い、記入物のチェックを欠かさず、介護と看護で毎日のように話し合いながら、今必要な健康で安全なサービスを提供している。また、それができるほど職員間のチームワークが良い。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員間の人間関係がとてもよく、上司にも気軽に相談できることから、介護者が自信をもって日々の介護にあたっている。結果、利用者も落ち着いた生活を毎日送ることが出来ている。看護師が2名職員として配置されていることで、医療面についても安心感がある。ホーム長、ユニットのリーダー共に開設以来の従事者であり、地域との関係も改善され、今では信頼のあるホームとして地域に根付いてきている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日、事務所で朝の申し送り時、管理者と勤務者全員で運営方針・理念を復唱し、みんなで共有する事で、理解と実践への取り組みの意識統一を図っている。	「寄り添い、向き合い、聞くこと」を主にした、5つの基本理念が、玄関フロアに掲示されており、グループホームだから出来る事を意識して、職員は日々の業務の取り組みに理念を生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設時より、自治会に加入している。今年7年目で自然なお付き合い、ができています。自治会行事に入居者と参加し、GH主催のイベントには、ボランティアで協力して頂いている。	地域との関係改善がすすみ、今では自治会長の尽力により事業所が地域の一員となっている。地域からの相談者がきたり、施設でのイベント開催に自治会婦人部の方々の手伝いを頂くなどの協力もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民のグループホームへの認識も、徐々に深くなり、近所の方が介護相談に来所されることもある。毎月地域に向け新聞も回覧し、新聞の中に「介護と知識」という欄を定期掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各ユニットの活動報告を行い、ご意見を頂きたい課題を毎回設定し、様々な立場から課題に対する意見や改善点、アドバイスを頂き、サービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議は2カ月に一度、偶数月第二火曜日と決めて開催している。テーマを決めて意見をもらい改善向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護法指定介護機関ということもあり、入居者の生活に関する事や、健康に関すること等で問題を抱える方もあり、相談に乗って頂いたり、共に問題解決に向け関わって頂いている。	生活保護受給者や権利擁護者の方もおられるので、いろいろな面において、市関係者との連絡は密にとっており、問題解決に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修会で身体拘束についての勉強会を行っている。身体拘束廃止推進委員会は主体となって、理解と工夫を共有している。鍵をかけない工夫として意識して見守りの徹底を行っている。	玄関は自動ドアで自由に入出りできる。ユニットごとの仕切りも昼間は解放されており、自由に行き来が出来る。現在、夜間のみ転倒防止のため家族の同意の元、4点柵をする人がいるが、減らす方向で取り組みを図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の内部研修会を実施。虐待についての職員の認識の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が対応しているが、職員にはカンファレンス時や勉強会で、実際入居者が利用されている制度について説明を行い、理解してもらった上で支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	特に必要と思われる事項(起こり得るリスクや入院時の対応、ターミナルの説明、重度化に伴う対応について等)は、時間をかけて説明しご理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者も職員も面会時や電話等で家族とのコミュニケーションを密にして、話やすい雰囲気作りを行っている。	家族代表の運営推進会議への出席で意見をもらうほか、職員と家族のコミュニケーションを取ることに留意し、面会時には日々の事を伝え家族意見を聞きとり、運営に反映するように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とコミュニケーションを図るよう心掛けている。少しのことで、朝の申し送り時やカンファレンス時に、職員の思いや意向を聞き、すべて管理者が決定するのではなく、現場の声を大切にしている。	職員の能力に応じたスキルアップを図る研修を受けてもらい、現場の気づきを記録し、気軽に上司に相談できるような雰囲気づくりに努め、職員の意見を反映するようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内で職員のストレス解消に向け、悩みを聞く心理カウンセラーを配置している。職員が向上心を持って働き続けられるように、職場環境の改善に取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年法人内で「スキルアップ支援チーム」が発足、職員教育の強化を図り、レベルアップの為に研修を計画・実施している。また、伝達講習を徹底し、全職員が知識の共有を図るシステム作りを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会・松阪グループホーム部会で施設見学等を通して職員同志の交流を行い、資質向上の為に研修会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えは何か観察・記録し、どのように対応していくか話し合い、安心できるサービスを導入できるよう、ケアプランに反映するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望をケアプランに反映したり、家族の方からの要望や訴えがあるときは、耳を傾けて良い関係が築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」必要としていることに対して、すぐ実行できるように話し合っ対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1つの家族のような気持ちで接している。教えて頂くことも多く、共に支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話などで日ごろに様子を報告し、家族の協力も得ながら、本人を支えていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人など面会時は居室でゆっくり話して頂けるようにしている。家族と馴染みの場所へ外出されることもある。	知人の面会や神社へのドライブなど、馴染みの人との関係継続が出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の個性を見極めてトラブルが起らないよう席や外出時の組み合わせを考え、利用者同士の関係がうまくいよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	何かあれば相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えや思いは何か理解するようにし、本人本位に検討するようにしている。	入居年数の長い利用者が多くなり、元気だったころの事を把握していることと、センター方式で思いを引き出すなどに努め、把握した意向に沿うようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ホームに来るまでの生活も家族に聞いたり、本人との会話の中で、情報を得て本人を理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録などチェックし、それぞれの方の状態や様子を把握するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで話し合いを行い、それぞれの意見を基に、介護計画を作成している。本人や家族の意見なども反映させるようにしている。	毎月1回カンファレンスを開催、全職員集合して話し合いをし、介護計画に反映している。計画作成担当者は3か月に一度の見直しを行い家族の同意も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録して情報を共有し、いつでも確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスを本人用に形を変えたりしてその時に必要なことに応じて対応できるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	草抜きや自治会の行事に参加し、地域の方と関わりを持つようにしている。イベントなど地域の方に参加して頂き、少しずつ協力もして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望するかかりつけ医となっている。家族が受診に行かれる所でも様子や状態を伝え、適切な医療を受けられるようにしている。	かかりつけ医はそれぞれの方の希望に応じている。希望により協力医による変更をされる方もある。看護師による受診支援もしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何かあれば、看護師に相談している。処置やバイタル測定など行ってもらい、入居者の体調管理にも気をかけてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師と情報交換を行い、病院関係者と話をして、情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在終末期の方はみえないが、本人や家族の希望があれば対応できる準備はある。職員にはターミナル研修も行っている。	ターミナル看取り指針を作成し入居時に家族の同意を得ているが、最終的には家族と本人の希望を優先している。家族のいない方は最後まで看取っている。職員は同一法人内の特養において、ターミナル実施研修を受け、適切な支援が出来るように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員による心肺蘇生法の講習会や急変時対応マニュアルなどの確認の内部研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度、昼夜間の防災訓練を行っている。災害時のマニュアルもあり、自治会との協力体制も築いている。	消火訓練、避難訓練、通報訓練等、火災発生に関する訓練は年2回実施している。先日の県グループホーム協議会での地震訓練にも参加し、新たな課題を見つけている。	訓練を一層充実することで、地震発生時にも地域との強い協力関係を築けるよう、見つけた課題を検討し、今後の対応を希望したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った話し方や言葉掛けをするようにし、子供扱いしたり、命令口調にならないよう言葉使いにも気をつけている。	9人9通りの思いや意向があることを重視し、その人の身になって考え、行動を起こすことを徹底している。部屋の入り口にはカーテンを張り、夜の着替えは自室するなど、ちょっとした事にも気配りをするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着替えの服や飲み物など選んで頂いたりする機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度は職員側で決めてしまっていることもあるが、レクなどの参加を強制することはない。できる限り、本人の希望やペースに合わせて過ごせるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を整えたり、その方の好みの服や合った服を着て頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を話して食事を楽しみにしてもらえるようにしたり、もやしのひげ取りなどの下ごしらえやテーブル拭き、食器拭きなど手伝って頂いている。	献立は職員が立て、同一法人特養の管理栄養士によるチェックを受けている。手伝うことが出来る利用者には出来る範囲で関わってもらっている。ただ、当日の食事は少し味付けが濃いように感じた。	食事は日々の楽しみであるので、美味しいものを提供する事を意識し、味付けも濃淡の工夫により楽しい食事になるように希望したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は常にチェックし、個人の摂取量も把握している。その方に合わせて食べやすい形状にしたり、水分量が少ない方にはゼリーで摂取して頂き工夫している。栄養バランスは本部の管理栄養士にチェックしてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。自分のできる方は声掛けし、できない方へは介助して清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	希望時にはトイレ誘導を行っている。チェック表を見て誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。	夜間のみオムツ使用の方もいるが、排泄チェック表により排泄パターンを把握し、トイレ誘導による支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の少ない方へは働きかけを行ったり、牛乳を飲んで頂いたり、マッサージなど行っている。主治医の指示の基、看護師と相談し、薬の調整も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日以上入浴していない方優先に入って頂き、平等に入浴を楽しめるようにしている。	毎日沸かし、出来るだけ入浴を楽しみに出来るようにしている。入浴嫌いの方には間隔を3日以上は空けないように、個々に沿った支援をしている。羞恥心のある方には女性職員による対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時に、寝むそうな時は休んで頂いている。一人ひとりの状態を把握し、安心して眠れるような環境作り、排尿時間の把握に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーを個人ファイルにはさんでいつでも確認できるようにしている。状態が変化したときは看護師と相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いなどできることをして頂いて感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外出される方もある。屋食やおやつなどの外食をして頂いたり、散歩したりと気分転換もはかって頂けるよう努めている。	散歩に出たり、玄関や中庭に出て外気に触れるように努めている。園芸にも力を入れ戸外に出て気分転換を図るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は事務所でしているが、個人の外出時や交流会などの外出時は、職員がお小遣いを預かり、本人の要望通りに使える環境を整えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現状、家族との電話は、かかってきて取り次ぎ、話して頂くことがほとんどである。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	臭いや室温・湿度に注意を払い、不快な状態にならないようにしている。	畳コーナーでは洗濯ものたたみをしたり、温かい日には中庭で過ごしたり、玄関口にある事務所にも気軽に立ち寄れる等、居心地よく暮らせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファへ座る方、横になる方もいれば自席に居る方もおり、好きなところで過ごして頂いている。気の合った利用者同士で過ごせるようリビングの席は配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より本人が使っていたものを持ってきて頂き、配置し居心地良く過ごして頂けるよう努めている。	ベッドで過ごす時には不穏な状態であった方を、それまでの生活環境にあった畳敷きに変更した所、落ち着き不穏状態が解消されるなど、その人にあった個室づくりに対応するように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには、「便所」のシール、各居室には名前の書かれた表札が掛けてある。自立してできることは、安全に配慮しながらして頂いている。		